

新緑の谷津田を歩こう

山岸文子（千葉市 文と絵）

日 時：2010年5月2日（日）10時30分～12時 天候：晴

参加者：子ども3名 大人17名 計20名

担当指導員：岡田敬子 山岸文子

オオスズメバチが飛び始めた。参加者にハチに対する注意をまず説明。カラスノエンドウとスズメノエンドウが並んで生えている。見比べる事から本日の観察会がスタート。参加者から「これ食べられないの？」と質問があり、カラスノエンドウの実を食べてみる。「何か、イケるぞ」の声。

移動中、シュロの名前について質問。別の人が「昔は蠅叩きを作った」「え～っ、どうやって作るの？」予定外だったが、葉柄を切り取り蠅叩きの作り方を実演した。葉を細長く裂いて野菜を束ねたり、干柿を吊るす紐に使った事。幹はお寺の鐘を撞く撞木(しゅもく)に。シュロ皮(繊維網)は縄、束子、蓑、漉網に…。「昔はエコだったのね。何でも身近な物で工夫したのね」と感心する参加者。

シロダモ、シラカシの新芽を指して「必ずしも新芽は緑だけではない、アカメガシワ等の赤い色は紫外線から身を守る役目がある」と説明。新芽の色の違いを楽しんだ。

ムラサキケマンの実に触れると種が一斉に弾けた。ワァー面白い。全員が子どもに還って大喜び。

野草カードを示してカントウタンポポとセイヨウタンポポの形の違い・殖え方の違いを説明。セイヨウタンポポは本来食用として移入したが、瞬く間に全国に拡がってしまった。

「ニガキという名前の木です。どんな味でしょうか？」と問いかけると、「じゃ、食べてみよう」胃薬で食べても害はないが、葉の苦さに降参。飴をなめた。

シュレーゲルアオガエル成体を掴まえた子ども。「今鳴いている声の主ですよ。じゃ、卵を探してみましょー」、畦の卵塊を覆っている土を除けたら、何と孵化していた！水をかけたら小さな小さなオタマジャクシがゾロゾロゾロ水路へ滑り落ちていく。水の中で元気に泳ぎ出した。雨の日にしか見られない光景で初めて見る人が殆んど。「雨がずっと降らなかったらどうなるの？」と心配する声。[大丈夫。卵を包んでいる泡が消えて粘液になり無事に水路に辿り着く]と答えた。命の誕生は神秘的で感動的。大人も子どもも目を輝かせて本当にじっくりと観察。予定の時間をはるかに超えてしまった。通路にミミナグサとオランダミミナグサの違いを見たところでもうお昼。

＜今日初めて来て色々見る物があるのに驚いた。

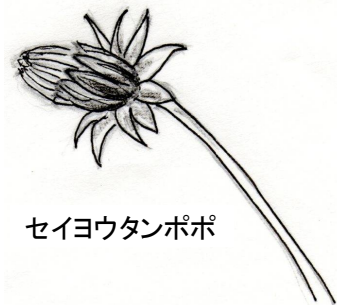
谷津ってどんな処か実感できた。カエルの孵化に感激した。

新緑の中を気持ちよく歩けた。面白かった…＞等々の感想。

＜次回は薬草と食べられる草の観察会を是非…＞という要望があり、セイヨウタンポポのレシピを全員に配った。



ウワミズザクラ



セイヨウタンポポ